2025 年 9 月に実施されたオンライン調査にご協力いただいた皆様 (結果報告)

天谷祐子・家島明彦・戸田有一
(名古屋市立大学・大阪大学・大阪教育大学)

2025 年 9 月にオンラインアンケート調査とオンラインインタビュー調査にご協力いただいた皆様、調査にご協力いただき、ありがとうございました。遅くなりましたが、結果をご報告いたします。(研究課題名:オンライン上の交流が適応感やキャリアに促進的影響を及ぼすプロセスの解明―レトロスペクティブな視点からのインタビュー調査より―)



【研究目的】

本研究では、中高生時代から対面上の身のまわりの人と共有しづらい趣味や特性を持ち、オンライン上の他者との交流を通じてご自身にポジティブな変化があった大学生を対象に、オンライン上の他者との交流に至るまでのプロセスと、それによる心情や将来のキャリアに対する捉え方の変化を明らかにすることを目的としました。中高生にとって、インターネットや SNS とのかかわり方は社会的に注目されているトピックですが、そのポジティブな側面(ベネフィット)に焦点を当て、知見を蓄積したいという意図から実施いたしました。

【方法】

インターネット調査会社を通じて、2,103 名の大学生を対象にアンケート調査を行いました。その中で、(1)周囲の他者に開示しにくい趣味・特性を持っている、(2)オンライン上で自分と似た人を積極的に探していた、(3)オンライン上のみで交流していた(対面で会っていない)、(4)オンライン上の交流が自身にポジティブな影響をもたらしたと認識している、の 4 点を満たす 20 名を抽出しました。その中から多様な背景を持つ 7 名(男性 3 名、女性 4 名、21~22 歳)の方々にオンラインインタビューにご協力いただきました。



【結果と考察】

1.趣味・特性の情報収集・交流のプロセス

周囲に話して共感してもらえなかった経験のある人がいる一方で、周囲に話すことに抵抗があり、最初からオンライン上で探し始める人もいました。SNS 等を通じて、匿名で自分と似た関心や経験を持つ人を検索し、情報交換や気持ちの共有を行っていました。また短期間で終わった関係もあれば、数年間にわたって関係が続いた人もいました。

2.交流を経ての変化、類似の特性・嗜好を持った中高生へのメッセージ

オンライン上で同じ境遇の仲間とつながったことで、「自分だけじゃないと感じられた」、「気持ちの支えになった」、「心が軽くなった」、「自信をもって好きと言えるようになった」という気持ちの変化が語られました。周囲に明かせずに自分だけで悩んでいる人にとっては、オンライン上の交流により心が軽くなり、また、楽しみたいのに仲間がいない人にとっては、自信につながる場合があることがわかりました。

現在同じような状況にある中高生に向けて、「周りに同じような人がいなくても自信を持ってほしい」、「世界は広く、自分と同じような人もいる」というメッセージが寄せられました。

今回の調査を通じて、オンライン上の空間は、周囲に明かしづらい趣味・特性を持つ中高生にとって、似た仲間を見つけ、自分自身を肯定するきっかけになり得ることが分かりました。インターネットのリスクに留意しつつも、そのポジティブな可能性を活かしていくことの重要性が示唆されました。

研究内容は、ISSBD(International Society for the Study of Behavioural Development, 2026 年 6 月に韓国で開催)にて発表しました。また JSPS 科研費 25K06522 の助成を受けました。

ご協力いただいた皆様、貴重なお話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。